



櫻園通信 36. 平成 28 年 5 月

東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

春、次々と花つけ 『草木塔』間に合わず、と言う風情ですが、幾つかの草木のこと書き継ぎます。どこに何が生えているかを記載する便宜上、大雑把な地図を示します。



- A : 養育院記念中央ひろば、銅像、水場の一角
- B : 自主管理歩道東沿い、歩道分離帯
- C : 自主管理歩道線路沿い
- D : 自主管理歩道北沿い
- E : 駐車場周囲
- F : 大山公園 (旧養育院敷地)
- G : 屋上庭園 : 一般公開 (3 階リハビリ外来待合室より一般入園可) リハ訓練用、緩和ケア (一般入園不可)

⑩馬酔木 : アセビ

「スズラン」のような白い花が連なり、次第に長くなり、花期も長い。また、新緑も美しいツツジ科アセビ属の常緑低木です。日本に自生し、万葉集にもいくつも歌われ、古くから愛されてきたが、一首を紹介します。

我が背子に 我が恋ふらくは奥山の

馬酔木の花の 今盛りなり

当院の庭のあちこちに植えられています。別名「あしび」などと言われ、漢字で書くと「馬酔木」です。「馬」が葉を食べると毒に当たり酔っぱらったようになることが名前の由来です。葉、樹皮、茎、花、すなわち全株にグラヤノトキシン、アセボプルプリン、アセボイン、ジテルペン、アンドロメドトキシンなどの毒素成分があり、毒症状は、血圧低下、腹痛、下痢、嘔吐、呼吸麻痺、神経麻痺などです。鹿などの食害の多いところでこの木が食べ残されて増え、鹿の多い奈良にアセビが多い理由とされています。有毒植物であり、近年では、殺虫効果を自然農薬として利用する試みがなされているそうです。

よく似た花を咲かせるものとして、西洋イワナンテンが地図のC領域の南の辺りに植えられています。ドウダンツツジ (満天星) も鈴蘭型の白い花を咲かせますが房にはならず、紅葉が美しい。街などでよく見かけますが、当院では見かけません。

⑪ベニバナトキワマンサク : 紅花常盤万作

マンサクは、早春、枯れ木に葉が出る前に、黄色いリボンのような花を咲かせる。日本全土に分布する高木である。古くから庭木と



アセビ



西洋イワナンテン



マンサク

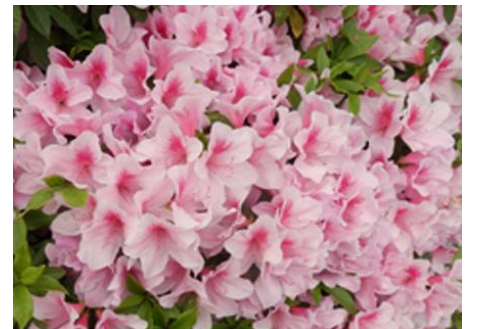
して愛され、蠟梅、山茱萸とともに早春の先駆けの黄色い花を咲かせる。和名の由来は、春の早い時期にまず咲くからという説と、花が枝に満ちる様子からついたという説があります。

この近縁種で、葉が赤褐色の常盤で、花がピンクのトキワマンサクが、近年造園業者により盛んに植えられています。当センターでも線路際の歩道際C初めて見た10数年前は、ホーと思ったが、今はいささか食傷気味である。

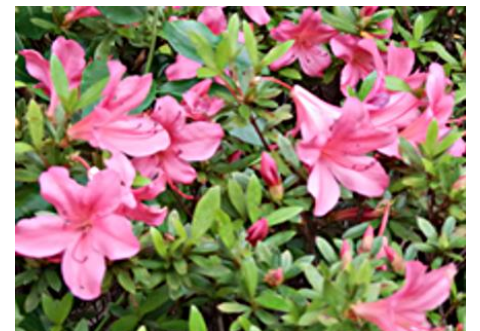


⑫ ツツジ：躑躅

ツツジの類は4月から5月にかけて漏斗型の特徴的な形の花(先端が五裂している合弁花) 枝先につけます。ツツジ属の植物はおおむね常緑若しくは落葉性の、低木から高木で、葉は常緑または落葉性と書かれているように、何でもありの花木です。主にアジアに広く分布しますが、日本の野生種として、ヤマツツジ、ミツバツツジ、レンゲツツジ、モチツツジなどがあります。江戸時代に久留米藩で品種改良が盛んにおこなわれ、小ぶりの花の多くの美しい品種が生まれました。久留米つつじと言われる一群です。また同じころ平戸藩で大きな花を咲かせる品種が開発され、オオムラサキなどの花の大きい種が生まれています。今日園芸業者が多用する結果、ツツジの代表的な品種とみなされるようになってきました。白花、ピンクのはなのもあり、当センターでも多用されています。



ツツジの語源は、「ツツキサキギ(続き咲き木)」の意味や、「ツツリシゲル(綴り茂る)」の意味などの説があります。漢字では躑躅と書きますが、読めてもかけない漢字の代表的なものでいつもパソコンのお世話になっています。「躑躅」は「てきちよく」とも読みます。昔中国で、羊が誤ってシナレンゲツツジの葉を食べると、「足もとがおぼつかなくなり、死んでしまう」ので、「羊躑躅」(ヤンチーチュー) と呼んだ、と言います。また、羊は毒であることを知っているの、シナレンゲツツジを見ると、前に進まなくなるから、とも言います。「躑躅(てきちよく)」には「行っては止まる」「躊躇」という意味がありことから、見る人の足を引き止める美しさから、この漢字が使われたとも言われますが、後から付けた屁理屈のようです。



⑬ シャリンバイ：車輪梅

4-6月に白または淡紅色の5弁の梅のような花(両性花)をつける常緑低木ですが、バラ科の植物です。枝の分岐する様子が(葉の配列の様子とも)車輪のスポークのようで、花が梅に似ることから車輪梅と名付けられています。当センターでもあちこちに植えられ、特に線路際に沢山あります。

東北地方南部以南の日本、韓国、台湾までの海岸近くに自生します。艶のある常緑葉が美しく、乾燥や大気汚染に強く、良く刈り込みに耐えることから、道路脇の分離帯などの植栽や公園樹、庭木として多用されています。10-11月に直径1cm程の球形の黒紫色の実がなります。

